九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第3巻 : 通史編 III

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1801800

出版情報：九州大学百年史. 3, 2017-03-31. 九州大学
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

九州大学百年史

第3巻

通史編Ⅲ

序

九州大学は 1903（明治 36）年創設の京都帝国大学福岡医科大学をその直接の前身として、1911 年、工科大学・医科大学よりなる 4 番目の帝国大学として創立されました。2011（平成 23）年に創立百周年を迎え、次の百年に向けて、常に未来の課題に挑戦する大学であり続けることを目指しております。

大学の使命は、学問をたゆまず進歩させ、科学・技術・文化など万象に接し、過去と未来を結ぶ時間軸の中で真理を探究し、その先へ向かって叡智の光を放っていくことです。『九州大学百年史』は、九州大学がこれまでどのようにその使命を果たしてきたのかを、内外に積極的に公開することを目的として編集されています。本書を通じて九州大学の歴史を広く知っていただくとともに、今後の九州大学のあり方について、示唆や指針を得る手がかりとしていただきたいと存じます。

『九州大学百年史』は通史編・部局史編・資料編から構成され、本巻は九州大学全体の歴史を示す通史編の第Ⅲ巻として公開されます。本巻では、1994（平成 6）年に教養部が廃止されてから、2012 年に創立百周年記念式典が挙行されるまでの時期を対象といたしました。この時期は九州

大学がこれまでに刊行した『九州大学五十年史』『九州大学七十五年史』の後の時期にあたります。本巻は『五十年史』『七十五年史』の成果を踏まえつつ、両書の後の時代を詳細に叙述するよう努めました。

本巻が対象とする時期は、バブル経済が崩壊し、日本が先の見通せない時代に突入した時期にあたります。くわえて情報化や国際化、少子高齢化といった、社会の大きな変化にも遭遇することとなりました。このような時代状況の中で、大学は大きな改革を迫られるようになり、九州大学は独自の制度として「学府・研究院制度」を創設するなどの改革を実施いたしました。そして九州芸術工科大学との統合を経て、2004 年には、新制大学の発足（1949 年）以来の大きな変化である「国立大学法人化」を迎えることとなります。

九州大学が、国立大学法人化に向かう時代の中で、どのように改革を構想して実行したのか、そして法人化後に、さらにどのような改革を実行していったのか、本巻ではその全体像を明らかにしております。九州大学が創立百周年を機に掲げた「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となる」という基本理念は、こうした改革を進めることで見出された目標です。本巻は、この基本理念の実現に向けて、さまざまな示唆を与えてく

れるものと存じます。

さまざまな改革の実行が、本巻の対象とする時期における九州大学の歴史の 1 つの軸であるとするならば、もう 1 つの軸はキャンパス移転です。伊都キャンパスへの統合移転は現在も進行中でありますので、本巻ではそのすべてを叙述することはできませんでしたが、移転がどのように構想され、準備が進められ、そして実行されたのか、その途中で発生したさまざまな課題への対応も含めて、詳細に明らかにしています。

本巻の編集・執筆にあたっては、数多くの方々から資料の提供などのご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

2017（平成 29）年 3 月

九州大学総長　　久 保　千 春

凡　例

1　本巻「通史編Ⅲ」には、おおむね 1994 年の教養部廃止後から 2012 年の九州大学創立百周年記念式典までの九州大学全体の歴史を収録した。

2　本文の漢字表記は常用漢字・現代かなづかいを用いた。ただし人名等の固有名詞についてはこの限りではない。

3　引用資料については以下のとおりとした。

(1) 漢字を原則として常用漢字体に改めたほかは原文どおりの表記とした。ふりがな・傍点・傍線等は原則として省略したが、難読と思われる漢字についてはふりがなを付けた場合がある。

(2) 明確な誤字についてはこれを改め、特に註記はしなかった。

(3) 引用資料の一部を省略した場合はその部分に〔前略〕〔中略〕〔後略〕等と註記した。

4　年紀は西暦で示し、適宜元号を補った。

5　敬称は資料提供者名以外は省略した。敬語は用いないこととした。

6　本文中の図（写真を含む）・表には編ごとに番号を付した。例えば、第 12 編の第 1 図を「図 12-1」のように示した。

7　資料編各巻に収録した資料については、収録した資料編の巻号と資料番号、頁数を示した。例えば資料編Ⅲの 900 番資料 1127 頁を「資料編Ⅲ－900、p.1127」のように示した。

8　本巻の執筆者は以下のとおりである。

第 12 編	市原猛志
第 13 編	市原猛志
第 14 編	市原猛志
第 15 編第 1 章	市原猛志
第 2 章	藤岡健太郎